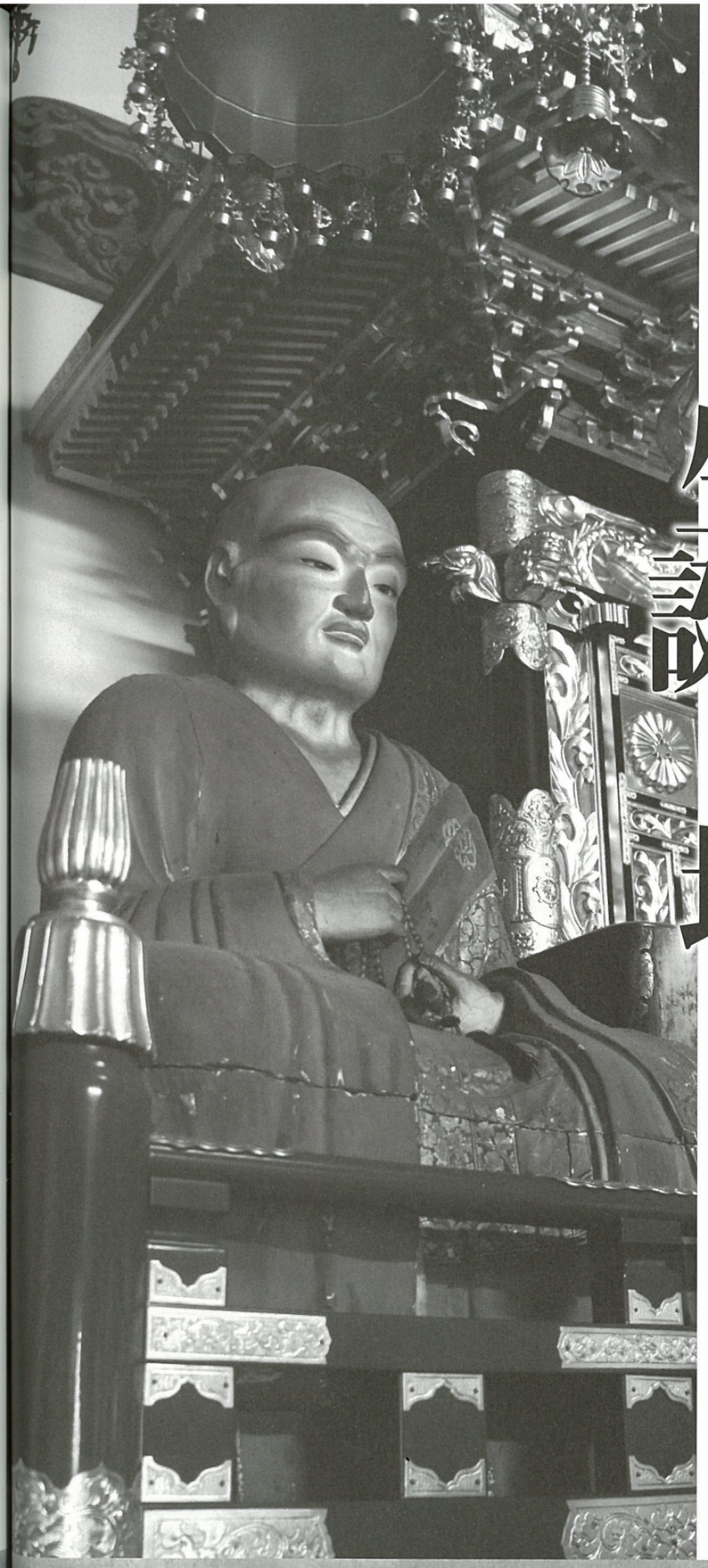
天海ゆかりの地を訪れて

天海大僧正の生誕の地

―会津高田と龍興寺―

笹川 壽夫



天海大僧正御尊像
（龍興寺本堂）

龍興寺にある天海両親の墓

両親の墓の発見

喧しかった天海の生誕の地の論争も、大正四年（一九一五）の辻善之助、黒板勝美の両博士によって、高田の郷が生誕地だと確定された。

両博士は、天海の生誕地の確認調査のため、旧高田町の町内の由緒ある所を二日間にかけて調査した。天海が得度したといわれる龍興寺の寺域を調べていくと、偶々その墓地に漆の大木があり、そこは墓掃除の塵捨て場となっていた。その中に埋もれていた二基の五輪塔を発見したのである。

漆の木は漆かぶれになるといって、人が近づかなかったので長い間気づかれずに埋もれていたのである。その五輪塔の一基には「景光」と陰刻されていた。

「景光」とは、天海の父、舟木景光のことで、『桜農栞　村の巻上』には

「その祖は船木兵庫亮で、前に足利氏に属し奥州会津に来たりて高田に住み、蘆名氏五代の盛貞に仕ふ」

とある。その後裔が景光である。蘆名氏の臣となり、高田の城主蘆名盛常の娘を妻とした。その両親の墓が見つかったことにより、高田郷が生誕地と認められるようになったのである。

古く「天海屋敷」と呼ばれた一角に、大正十三年（一九二四）十月二日の天海大僧正の忌日に当たる日に「慈眼大師御誕生地」という高さ三メートルほどの石碑が建てられた。

その石碑の裏面には「東叡山第二一世法孫輪王寺門跡大僧正天台沙門大照圓朗謹書」と彫られてある。

この場所は後に町役場の敷地となったが、

JAみどり高田支店前にある「慈眼大師御誕生地」の石碑